

心を自由に大地と向き合う時間。 出会いと気づきをもたらす。

弟子屈町にとどまらず道東を体感する
日々、鶴居村にて

鈴木 藍 (すずき あい) さん

(株)地方創生推進協同機構 北海道支店長

1988年川崎市生まれ。2018年(株)地方創生推進協同機構創設メンバー。2020年10月より同社北海道エリアの事業立ち上げに伴い、北海道支店長就任。北海道の国立公園ブランド化事業・ガストロノミー開発事業・旅行商品開発事業など、多様なプロジェクトの事業開発マネージャー。

北海道に移住(U・I・Jターン)して、地域を巻き込む取り組みをする輝く人を紹介するインタビュー。お話を伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーのかとうけいこさん。15回目となる今回は、国立公園をはじめとした道東の魅力を地方創生コンサル・事業開発マネージャー・ネイチャーライターの視点で組み立て発信する弟子屈町の鈴木藍さんです。

移住当初の想いを振り返っていただけますか？

山が近く見え温泉もすぐそばという幼少期に暮らした松山市の原風景に近かったこともあり、割にずっと弟子屈になじめました。雄大でありながらも深い静けさを併せ持つ自然環境の中に身を置くと、時間の使い方、行動の選択基準が少しずつ変わっていくように感じました。移住当時、知り合いもほぼゼロのなかで、自問自答を繰り返していました。「どんな社会やコミュ

ニティを築きたいのか？どんな未来を望んでいるのか？」と。

言葉選びが哲学的、文学的だと言われませんか？

システムティックになり過ぎた都会の構造から物理的に、そして突然離れたことで、自分の特徴が更に強調されたかもしれませんね(笑)。元々本質的な生き方を追求するのが好きだったので、弟子屈の暮らしはフィーリングがピタッと合った気がします。小学生から今まで本のページをめくらなかった日はなかったので、若干話し言葉が文語的かもしれませんね。

移住志向はあったのですか

元々、移住してみたいという気持ちはありました。それが地方創生の支援会社設立に携わり、「自分も地方で新しい事業の立ち上げに関わりたい」という思いへ徐々に変化していたタイミングでのK社長との出会

いが大きかったです。弟子屈町出身で自分の故郷を深く愛していて、人口が急激に減り繁栄していた温泉街がものすごいスピードでさびれていくことを何とかして止めたい、復活させたいという地域への愛と情熱、行動力に触れたことがきっかけかもしれませんね。

2020年7月、コロナで大変な川湯温泉に補助金申請サポートメンバーの一人として初めて弟子屈町に入りました。8、9月と間を開けずに滞在する中でK社長や、自分と年齢が近い地元メンバーから「川湯の再生と一緒に関わらないか」と声をかけてもらいました。新しい組織作りを任せていただけることは魅力でした。責任をもって仕事をする人が必要で、それを自分にと託してくれる人たちの思いに応えるためには、通いではダメ、暮らすことが必要、だから移住するという流れでした。迷う気持ちはなかったです。

暮らしてみてもうでしたか？

こちらに来てネイチャーツアーにはまりました。多くのガイドさんと共に大自然と戯れ、魅了されました。中でも、鶴居村の世界的なガイドでフォトグラファターのAさんとの出会いが大きかったです。人生の師といえる方と出会い、自然の中で静かに対話を重ねました。古代から続く雄大な火山地帯に、凍てつく風、白と静寂で埋め尽くす雪、その中で懸命に生きる命の集まり。そして、かつて同じ光景を見ていた先人たちの足跡。そんな世界に触れていると、身にまとっていた余計なものが次々と剥がれ落ちていくのを感じました。

10月に移住していきなり冬の暮らしに放り込まれたのも良かったです。白銀のキャンパスに、新鮮な気持ちでライフデザインを描ける静かな時間が与えてくれたことは、必然だったと思います。

仕事や遊びを通してこれまで以上に凄い人、専門家、豊かな人生を織りなす人と出会い、上の世界があると気付かされる日々です。何事かを成すには、人生の時間はあまりにも短い。だからこそ、本質的に重要なことだけに身を捧げる必要がある。そしてそれが私にとっては未開の地を開拓することなのだと感じています。

人と自然が本質的に繋がれるこのフィールドで、人生の目的地を発見できたことは、大変幸福です。そして、同じような体験を求めている方に、その恩恵をシェアできればと思っています。今考えていること、それは弟子屈に骨を埋めようということです。

これから移住しようと考えている人に一言お願いします

直感で移住した私が言うのもなんですが…。いきなり移住しないことが大事ですね。バックボーンがあったとしても大変です。長期滞在の旅と生活することって当たり前ですが違います。お試し移住というシステムがあるので活用してほしいですね。2か月ぐらい滞在して、本当にこの地域でいいのか、その地域と触れ合うことが自分の人生にとっていいのか考えてほしいです。

今後取り組んでいきたいことを教えてください

歴史、自然、文化のルネッサンスと真正面から取り組みたいです。10年後には阿寒摩周国立公園が世界に通用する国立公園になっているように、そのためにロードマップを作り行動していきます。

もう少し近い未来で言うと、「風曜日レラ摩周アドベンチャートラベルセンター」のプロデューサーとしての仕事があります。4月25日仮オープン、グランドオープンは6月上旬を予定しています。弟子屈、道東でアクティビティをしたいという明確な目的を持った人々へのインフォメーションセンターを開設します。コンシェルジュ機能を充実させ、道具の貸し出しもできます。また、トレッキングして疲れた人に使ってもらえるシャワールームも作っています。夜にはプレミアムバーベキュー、焚火を囲んでのワイン会など豊かな食生活ライフスタイルの提供をする場、弟子屈の情報発信拠点に…と願っています。

(2022年3月取材)

インタビュー後記

藍さんは昨年初夏に、環境省のワーケーション事業で出会いました。スピーディな仕事ぶりに加え、会うたびに元料理人だったことECサイト運営にも詳しい人？と、年齢に比しない多様な経験に驚いています。文章にまとめる形でのアウトプットも丁寧に行っています。弟子屈ライブをまとめたnoteも読んでみてくださいね。

かとう けいこ (株)まちづくり観光デザインセンター代表